



### 植樹祭をやりました

平成21年6月最後の土曜日、チンパンジーの森がオープンして1周年を記念し、放飼場をもっと森らしくしようと植樹祭を行いました。

当日は梅雨とは思えない晴天に恵まれ、強い陽射しのなか親子連れの家族が思い思いの苗木を持ち寄り、汗びっしょりになりながら作業を行いました。26組100名を超える方が参加されたほか、動物園を支援してくれる東京のNPO団体「市民ZOOネットワーク」からも応援をいただきました。

ご存知のようにチンパンジーはアフリカ大陸の赤道直下とその周辺に生息しています。いわゆる熱帯雨林というぐらいですから、大変樹木が多くチンパンジーたちはそうした樹林の中で生活しています。かみね動物園でもそうした樹上での生活を体験してもらおうと3本のタワーを建てました。当然彼らは喜んでタワーに登りますがやはり人工の工作物です。森は森らしく、もっと自然の質感をもたせようと飼育担当者も渾身の知恵を絞り（？）今回の企画となりました。

持ち寄ってもらう苗や木の種類に特に制限は設けず、好きなものを持ってきてもらうこととしました。サツキツツジやツバキ、ハクモクレン、ヒメシャラ、ケヤキ、柿ノ木、リンゴ、ブルーベリーなどとにかく種類雑多な構成となりました。もちろん、アフリカの熱帯雨林にふさわしい樹木で統一するのが望ましいのですが、何より一般市民の参加ということに重点をおきましたのであまり難しいことをいわないことにしました。自分たちも一緒に動物園づくりに参加してるんだという喜びも味わってもらいたかったのです。その結果、玉石混交、おもちゃ箱をひっくり返したような構成になりましたが、これはこれで賑やかでまた楽しいものです。本数も約300本集まり、大小あわせ100本ぐらい持ってきてくれた家族や、記念にということでわざわざホームセンターで購入された方もいました。

午前中で作業を終え、午後からチンパンジーたちを出しました。すると彼らは真っ先に今植えた樹木や苗木に向かい、ムシャムシャと葉っぱを食べ始めました。特にリンゴなどは葉っぱがなくなるぐらいの勢いです。もちろんこうなることは予想していましたが、そのことは事前に参加者にも伝えておきました。それはそうです。せっかく植えたのに葉を摘まれたり枝を折られたりするわけですから。しかしそこが通常の植樹とは違って、彼らはエサとして、また枝葉を集めてベッド代わりにしたりと、樹木がチンパンジーの生活の重要な素材になるわけです。ですから、「あー私のも食べてくれたあ」などと参加者はそれを見て逆に大喜び。植えた市民が喜び、チンパンジーが喜び、それを見てお客様が喜ばれる。そこが今回の植樹祭の大きなねらいでもありました。

あれから1週間がたちます。植えた木はどうなったか、抜かれたり食べられたりして惨憺たる結果？いえいえ、ちゃんとあります。数が多かったことありますが、ここは動物園。最初こそ珍しがって勢いよく食べてましたが、野生と違ってきちんとエサを与えていますのでそんなに食い散らかされることにはなりません。小さな苗木もこれから少しずつ成長し、やがて森らしくなっていくことでしょう。アフリカの自然とはいかないまでも、小さな森がチンパンジーたちの生活のバックグラウンドとして息づいていくことを願いながら当日参加された方にこの場を借りてお礼申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。



ボランティアで参加する市民



植樹光景



ぼくもがんばるよ



なんじゃこれ



おいしいおいしい



こっちの葉っぱのほうが…

2009年7月4日

## 過去の一覧

[令和6年](#)

[令和5年](#)